

平成29年度予算案について 問う



質問者
大館 秀孝 議員

(1) 平成29年度予算案の歳入について、町税全体で前年度対比1・3%減に対し、不足分を財政調整基金の繰入れ、町債の発行等で充てられています。が、持続可能な財政運営に懸念を感じます。来年度以降に對しどのような方向性をもった予算組みをされたのか、特に次の2点についてお伺いいたします。



PF事業として計画している籠場住宅建設地

(1) 投資的事業の起債は、後年度に償還費用が交付税の基準財政需要額に算入され、県の補助金や特別交付税の枠も用意されるなど、町が独自に行うより一般財源への影響を

A

**財源を確保し
未来への投資
を行う**

回答
(町長・教育長)

確保、地域の活性化、人口増加策等は？
(2) 学校統合に向けた小学校、中学校の児童生徒への物心両面での予算配分等は？

最小限に抑え、財源の確保を図り、必要な未来への投資を行うこととしていく。町は、自ら稼ぎ出すチャンスに常に念頭に置くことを習慣づけるような意識を職員一人一人が持ち続け、将来に向けて財源の確保に取り組んでいく。

(2) 在校生のために部活動を合同でできるようなスクールバスが個別に対応した路線バスが良いか問題点もあるが、通学も含めバス運行の予算233万3千円を計上した。また平成29年度から統合準備委員会を立ち上げ、具体的な統合準備を進めるため70万9千円を計上した。

統合準備委員会とは、寄中
小学校と松田中学校を統合するにあたり、保護者、学校長、地域の方、教育長等で組織し、通学方法などの諸課題を話し合い統合の準備を進める委員会です。

..... 一般質問は、質問者本人の原稿を尊重し編集しています。.....

議員行政視察報告 ①

糸魚川市の大火現場を訪れて

3月14日(火)～15日(水)
参加議員 齋藤永・小澤啓司・飯田一・南雲まさ子



新潟県糸魚川市は、北陸新幹線「糸魚川駅」を

有し、駅北口から日本海までは徒歩5分である。火災発生現場は駅北口のレトロな商店街だった。現地で、ご高齢の女性に話を伺うことができた。この方は、これまで取材を受けても一切応じず、私達に初めて火災の様子を話すとされた。月日がたち、やっと話す気持ちになったのだろうか？

火災発生当時、まず命が大事と思い、迎えに来られた息子さんの車に乗り、逃げたと言う。この辺は風が強く、過去2回の大火災があったとのことだった。

江戸時代からある料亭「鶴来屋」や「加賀の井酒造」は全焼したが、加賀の井酒造の由来が書かれた看板だけは残された。加賀の井酒造は、加賀藩の参勤交代の本陣と宿泊の世話をしていた関係で、加賀藩前田藩主から頂いた数々の品を所有していたが、今回の火災で焼失してしまった。

そのなかで、一軒だけ耐火設備が施された家が無事であったことが注目された。

同市では今後、火災現場の狭い道路の廃止、敷地の再編、防災用の緑地を整備する方針。

松田町も、さらに防災対策を推し進める必要があると思われる。

他に、糸魚川フオッサマグナムミュージアムと、寄でも栽培されている行者にんにく入りの餃子の製造販売元(株) 信栄食品に行き、話を伺ったが、紙面の関係で割愛させて頂く。

(記・南雲 まさ子)



焼跡と焼失を免れた家(右上)